

キリストの聖体

2018.6.3

マルコ 14・12-16、22-26

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

聖霊降臨の祭日をもって、教会の典礼暦は主の復活を祝う復活節が終わり、年間の季節を迎えています。その復活節後の年間の季節の先週の主日のミサの中で、わたしたちは三位一体の主日を祝い、今日の主日にはキリストの聖体の祭日を祝っています。典礼暦の年間の季節は、過ぎ越しの聖なる三日間と復活祭から始まって聖霊降臨の祭日までの祭りの期間にわたしたちが祝って来た、神の大いなる救いのみわざを信じて生きるわたしたちの信仰の旅のときです。その年間の季節の最初の主日に三位一体の主日が祝われるのは、わたしたちが祝って来たイエス・キリストの十字架の死と復活によってもたらされた、三位の神の大いなる救いのみわざが、聖霊降臨によって、わたしたちが生きる日々の中にもたらされていることを思い起こすためです。

先週の三位一体の主日の福音には「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」というみことばが響いていました。わたしたちが今日もこうしてこのミサに集っているのは、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるみことばを信じているからです。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる、わたしたちの主イエス・キリストがこのミサに集うわたしたちの中に、ともにいてくださることを信じているからです。わたしたちは今日もこのミサの中で主の祭壇に近づき、ご聖体を拝領します。そうすることによって、わたしたちは、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる主イエス・キリストをわたしたちの中にお迎えするのです。今日キリストの聖体の主日、このミサに集うわたしたちを聖体の秘跡に招いてくださっている主の恵みに心新たに気付かせていただけるよう祈りたいと思います。

先々週の聖霊降臨の祭日に、わたしたちは、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」というみことばを残されて父なる神のみもとに行かれたイエス・キリストが約束しておられたように、弟子たちの上に聖霊が降臨

したことを祝いました。聖霊の降臨によって、父なる神が御子イエス・キリストをこの世に遣わされることによって成し遂げようとされておられる救いの御計画の新しい時代が始まったのです。父なる神のみもとに行かれたイエス・キリストが、父なる神のみもとから弟子たちの上に聖霊を送られることによって、聖霊に満たされた弟子たちは、イエス・キリストこそが神から遣わされた全ての人の救い主であることを恐れることなく確信に満ちて宣べ伝えはじめました。弟子たちが宣べ伝えることばを聴いた人々は、弟子たちが告げることばを受け入れて、イエス・キリストを信じる者たちとなったのです。すなわち、その人々もまた、弟子たちが告げたとおりに、イエス・キリストこそが神が遣わされた神の独り子、全ての人の救い主と信じる者たちとなったのです。こうして、イエス・キリストを信じるキリスト教の教会がこの地上の世界に誕生したのです。父なる神がその独り子イエス・キリストをこの世界に遣わされ、そのイエス・キリストの十字架の死と復活によって、この世界にもたらそうとされた救いのみわざは、弟子たちの宣教によって誕生した教会を通して世界に向って宣べ伝えられることになったのです。

このようなことが実現したのは、父なる神のみもとに行かれたイエス・キリストが父なる神のみもとから、弟子たちと弟子たちのことばを受け入れた人々の上に聖霊を遣わしてくださることによって可能になったことを、弟子たちの宣教によって誕生した教会は知っていたのです。聖霊降臨によって聖霊に満たされた教会は、その聖霊によって、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる。」と言われたイエス・キリストが自分たちの中に、自分たちとともにいてくださることを知ったのです。こうして、世の終わりまでいつもともにいてくださるイエス・キリストを信じる人々の二千年の歴史を越えてわたしたちのもとにまで及んでいる教会の歩みがはじまったのです。教会は今もここに集うわたしたちをイエス・キリストを信じる信仰へと招き入れてくださった、聖霊の働きの中なのです。教会の上に注がれている聖霊によって、わたしたちはイエス・キリストを信じる者たちとされ、今日もここに集わせていただいているのです。

今日の福音の中でわたしたちが聴いた最後の晩餐の主のみことばは、最後の晩餐の席に連なった弟子たちがイエスの十字架の死と復活を経て、聖霊を注がれることによって初めて理解することが出来た主のみことばです。福音書の中

に記されていることは全て、聖霊降臨によって弟子たちが始めて理解することが出来た、弟子たちの思い出の中にあるイエス・キリストを語っているのです。福音書は、そのようにして弟子たちが宣べ伝えたイエス・キリストの思い出を基にして書かれているのです。そして、その弟子たちの思い出の中のイエス・キリストは聖霊によって、弟子たちの中に新たに蘇れたイエス・キリストなのです。今日の福音を通してわたしたちが聴いた最後の晩餐のときにイエス・キリストがなされたことと、語られたみことばは、そのようにして、弟子たちの宣教によって誕生した教会の中に伝えられてきたのです。今日もわたしたちがささげているミサは、そのようにして、教会の中に伝えられてきた最後の晩餐の記念なのです。

弟子たちがその席に連なった最後の晩餐でイエスがなされたこととその時に語られたことばは、イエスの十字架の死と復活によって実現したことを、弟子たちは聖霊を注がれることによって悟ることが出来たのです。あの最後の晩餐のときにイエスがなされたことと語られたことばは、イエスの十字架の死と復活によって実現したことを弟子たちは聖霊のうちに悟ったのです。そのようにして、弟子たちはイエスの十字架の死の意味を最後の晩餐でイエスがなされたことと語られたことばによって理解することが出来たのです。イエスの十字架の死は、イエスがあの最後の晩餐のときに言われていたように、十字架にかけられたその体と十字架の上で流されたその血を与えるための死であったことを悟ったのです。十字架の上に死なれたイエスの死は、人々に復活のいのちを与えるために死であったことを悟ったのです。

聖霊によって弟子たちの心のうちに蘇った最後の晩餐は、聖霊によって弟子たちが悟ることが出来たイエス・キリストの十字架の死と復活の意味を告げ知らせる教会の祭儀であるミサとなって、わたしたちのもとにまで伝えられて来たのです。

ミサがささげられるたびに、聖霊降臨によって教会の上に注がれている聖霊は、ミサに参加しているわたしたちの中に、最後の晩餐の記念であるミサがさし示しているイエス・キリストの十字架の死と復活によってわたしたちにもたらされた、神の救いのみわざを新たに実現するのです。ミサの中で、最後の晩餐のときにイエスが弟子たちに裂き与えられた聖体のパンを拝領することによって、わたしたちは神がイエス・キリストの十字架の死と復活によってわたしたちにもたらしてくださった救いのみわざの全てをこの身にいただくのです。

今日もわたしたちがささげるミサが示しているこの信仰の神秘を味わう恵みを、教会の中に働く聖霊に祈り求めながら、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるイエス・キリストの聖体に近づきたいと思います。